

MJ

Nikkei
Marketing
Journal

日経流通新聞

4月28日(水曜日)

月/水/金 発行

発行所 日本経済新聞社

東京本社 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
電話(代表) (03) 3270-0251

大阪本社 〒540-8588 大阪府中央区大手前1-1-1
電話(代表) (06) 6943-7111

日本経済新聞電子版 <http://www.nikkei.com/>

NIKKEI MJサイト <http://www.nikkei.co.jp/mj/>

MJメールマガジン <http://www.nikkei4946.com/e-service/>

購読の申し込み先 ☎ 0120-21-4946

<http://www.nikkei4946.com>

design

インテリアに調和する神棚

酒井 俊彦さん

(プロダクトデザイナー)



「今の住宅に合う神棚を考えて欲しい」。神棚メーカー、神宮司神棚舎（山梨県甲斐市）から依頼され、プロダクトデザイナー酒井俊彦（46）が手がけたのが神棚のデザイン。神棚というと、神社を模した「宮型」という形をよく見かけるが、3月に発売された酒井の神棚にはそうした屋根はなく、ごてごてとした装飾も見当たらない。

家具や家電など幅広い商品をデザインしてきた酒井だが、神棚は未知の領域。デザインする前に文献などを読みあさり、神棚は神様が住んでいるのではなく、神社でもらったお札をまつって置く場所という説が有力だとわかった。「ならばあえて家の形をしていなくてもいい」と屋根のない斬新なデザインが浮かんだ。屋根がないため多様なインテリアとも調和が取れる。神酒や米などを置く神具台を何層にも重なった木材で構成したのは神社の階段を意識したため。全体を洋風な住環境でも違和感のないシンプルな造形で表現した。

■ 神聖な雰囲気を大事に

毎朝手を合わせる気持ちになる“神聖さ、にもこだわった。伊勢神宮の社殿建て替えに使われる木曽ひのきを使い、1000年以上も地中に埋没していた神代桂という倒木を外枠や面格子に採用し、清らかで凛（りん）とした雰囲気を演出。この面格子は日本最古とされる宇治上神社（京都府宇治市）の本殿から引用したデザインで、硬質で加工が難しい神代桂を文化財の修復を手掛ける職人がきめ細かな手仕事で作り上げた。

3種類の神棚を用意したのは、様々な暮らしぶりに対応するため。一番小さいものは本棚に置くことができ、真ん中のサイズは壁にも掛けられる。いずれもフタを開けると中に神札が収まる。最も大きいものは従来の神棚とほぼ同じ大きさだが、奥行きは7.8センチと浅い。「3世代が同居した時、どの世代も納得する大きさを考えた」。持ち運びやすさも配慮しながら、「神棚らしい」デザインを追求したという。

—敬称略

(ライター 佐藤俊郎)

さかい・としひこ 1964年高知県生まれ。東京造形大学卒業後、プロダクトデザイナーに師事し92年に独立。サカイデザインアソシエーツ（東京・渋谷）を設立する。家具から家電、

ケータイ電話、文具まで幅広い領域でデザイン活動を展開中。その傍ら、複数のデザイナーと地場産業の作り手をつなげて新商品を開発するデザインディレクターとしても活躍する。